



未来に続く、変わってゆくもの、変わらないこと。

NISHIO × PHOTO

食



胃袋をつかまれる。
そんな感動的な出会いを生む一品が、
まちの風土を生かした味として受け継がれる。
中はフワッ、外はカリッと焼き上げた一色産うなぎ。
その味を求め、多くの人が遠方から足を運ぶ。
変わらない味は世代を問わず私たちの心を和ませる。

早朝の一色漁港。水揚げされたばかりの魚で作られたはんべんは、揚げたてが絶品。



材料と製法は昔と変わらず。伝統の味を職人が受け継ぐえびせんべいと豆味噌。

四季折々に私たちを楽しませてくれる大地の恵み。



日に焼けて力強く、それでいて優しさがあふれる手から、作り手の愛情が感じられる。



明治時代に始まった西尾の抹茶の歴史。
今では誰もが知るまちの特産品として根付いている。
長い歴史の中で守られ発展してきた抹茶の文化は、“Matcha”という世界共通語を生み、スイーツや体に良い食材として世界中から愛され続けている。



T



ものづくりは、このまちの大切な産業の一つ。
職人の情熱によって磨き上げられた高い技術は、
日本だけでなく世界の産業の発展を支える。
変化の多い時代だからこそ、変わらぬことを恐れず積み続けることが
未来の可能性を開く。

正確で丁寧な作業が品質の高さを支え、磨き続けられる高い技術は次の世代へと受け継がれる。



大切な部品を真剣に作り続ける西尾のものづくり精神が、このまちの発展を支える。

祭



450年の歴史を誇る三河一色大提灯まつり。
全長最大約10mの巨大な提灯は、見る人を圧倒する。
大切な行事が、まちに暮らす人の心を一つにし、地域を大切に思う心を育む。
祭りを愛し、伝統を重んじる人々の心に宿る火は、熱く燃え続ける。

1200年以上続く天下の奇祭・鳥羽の火祭り。天をも焦がす勢いで燃え盛る巨大な松明「すずみ」に斎戒木浴で心身を清めた男たちが果敢に挑む。



伊文神社御輿や大名行列、獅子舞などがまちを練り歩く西尾祇園祭。まちに活気があふれる。

文化



日本初の古書ミュージアム岩瀬文庫。
古書を通じて人々の営みや文化を学べるユニークな展示を行う。
三河地震の被害を免れた赤いレンガ造りの旧書庫は、昔と変わらぬ姿で、まちを見守る。

岩瀬文庫では、貴重な所蔵品に触れられる。



黄金堤を見守る吉良上野介義央。
人々の豊かな暮らしを願い続けた名君は、今も「吉良さん」と呼ばれ人々に親しまれる。



まちの風景に静かに溶け込む県内最古の木造建築物金蓮寺弥陀堂。

景

海や山などの豊かな自然が織りなす景色や、歴史のある街並みが残る西尾市。
訪れる場所が同じでも、季節や天気、誰と行くかで受け取る時間はさまざま。
いつでも変わらずそこにある雄大な自然は、時に私たちの心を癒やし、
未来へ進む勇気を与えてくれる。



山と海が共存するまち。田園風景に静かに咲く山桜が春の訪れを告げ、夏には穏やかな海とヤシの木が訪れる人の心を癒やしてくれる。



アートの島として知られ、訪れる人の心を魅了する佐久島。「三河湾の黒真珠」と呼ばれる黒壁は、潮風から家を守る暮らしの知恵。

暮



人をつなぐ心地よい暮らし

おばあちゃんが丁寧に作るみたらし団子をおやつに、休日を親子で公園で過ごす人。

たった一人の職人しか作ることのできない伝統工芸品「きらら鈴」を絶やすまいと奮闘する、地元のお母さんたち。

みんなが大きな1つの家族のような、心地良い繋がりが感じられる。



日々のかげがえのない時間

こだわりの素材や染料を使用した衣服を製作しているセレクトショップ。店主が選ぶ本に、まちへの愛を感じる地域に根ざした書店。子どもたちからおじいちゃんおばあちゃんまで幅広い層の憩いの場となっている商店。

日常に溶け込む当たり前の暮らしこそが、私たちが未来へ紡いでいくべき大切な時間。





令和3年3月 / にしおイズムフォトブック

発行 〒 445-8501 愛知県西尾市寄住町下田 22 番地

西尾市総合政策部秘書広報広聴課 ☎ 0563-65-2159

「西尾らしさ」を発信しています。「にしおイズム」で検索。